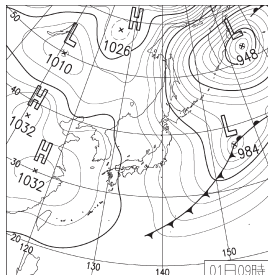


# 日々の天気図

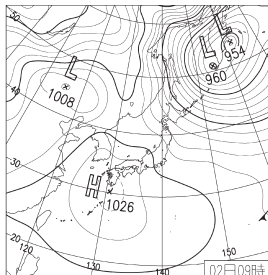
— No. 205  
2019年2月

- ・4日、東北地方で強風のため屋根剝離や鉄道運休等発生。けが人も。
- ・8日、北海道中心に最高・最低気温の低い記録更新。史上1位も。
- ・沖繩・奄美で記録的高温。月平均気温が年差+2.7℃で2月1位
- ・西日本日本海側で記録的少雪。月降雪量が年比1%で2月1位。  
(気象庁予報部予報課)



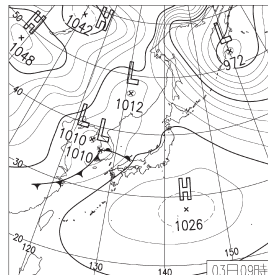
## 1日(金)北日本は暴風雪

東～北日本は冬型の気圧配置が続く。北海道えりも峠で最大瞬間風速32.2m/s、山形県肘折で40cmの降雪。本州～北海道の日本海側を中心に雪や雨。沖繩・奄美は寒気の影響で曇り。



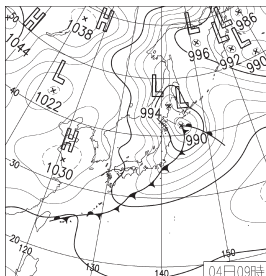
## 2日(土)北日本はじめふぶく

カムチャツカ半島で低気圧が発達し、高気圧が西から張り出す。北日本中心の冬型気圧配置は次第に緩み、北陸～北日本の雨や雪はほぼ夕方まで。その他の地域は概ね晴れ。



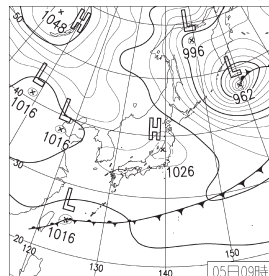
## 3日(日)各地で春の気温

前線を伴った低気圧が日本海を進み九州～東北は次第に雨が降り夜は一部で雪。長崎県大村の31mm/1hは2月1位。南よりの風で全国的に昇温。九州中心に最高気温が4月並の所も。



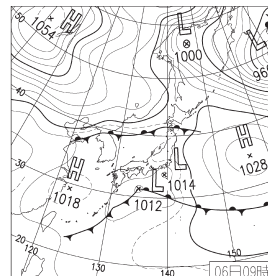
## 4日(月)北陸で春一番

日本付近は気圧の谷、広く暖気が入り、関東甲信以北で朝の最低気温が年差+15℃以上、6月上旬並の所も。午後は北日本で強い冬型気圧配置。北海道釧白の最大瞬間風速34.7m/s。



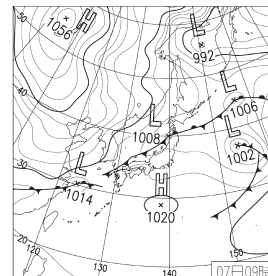
## 5日(火)徳島市ウメ開花

北日本の日本海側は寒気の影響で所々雪。沖繩・奄美は前線の影響で雨。九州や四国も次第に雨。その他は晴れや曇り。西日本や北陸では最高気温が年差より7℃以上高い所も。



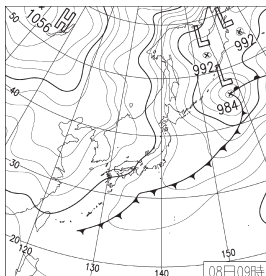
## 6日(水)低気圧本州南岸を通過

沖繩・奄美、西日本～東日本の太平洋側中心に雨。夜は西～東日本は暗れや曇り。九州や山陰～北陸は4月並の最高気温に。前線の影響で北日本は一部で晴れた他は曇りや雪。



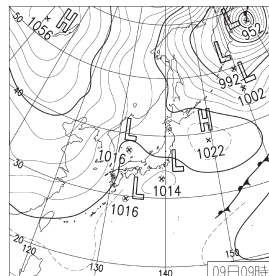
## 7日(木)名瀬市ヒカンザクラ満開

低気圧が東北北部を東進、前線が夜にかけて本州を南下。西～北日本では、朝晴れていた地域も前線通過時やその後の寒気で雨や雪。沖繩・奄美も湿った空気が流れ込み雨の所が。



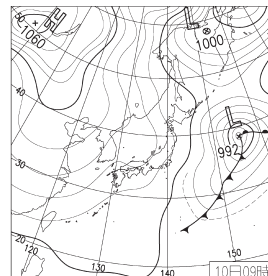
## 8日(金)札幌上空に記録的寒波

北日本中心に強い冬型の気圧配置。札幌の上空約1500mの気温は、統計開始以来最も低い-24.4℃を観測。太平洋側の一部で晴れたほかは、全国的に曇りや雨や雪の所も。



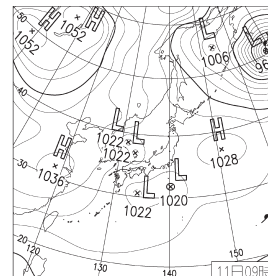
## 9日(土)関東で積雪

強い寒気の影響で最低気温は北海道陸別で-31.8℃を記録した他、北海道阿寒湖畔など9地点で観測史上最低を記録。関東は所々で降雪となり宇都宮、水戸でともに積雪3cm。



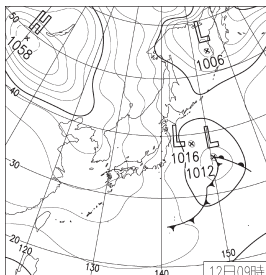
## 10日(日)北日本の寒さ続く

日本付近は冬型の気圧配置。北日本は日本海側を中心に雪。山陰～北陸も所々で雪。西日本～東日本の太平洋側は概ね晴れ。北日本は北海道を中心に広く真冬日。



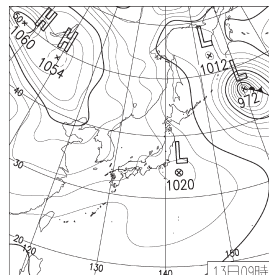
## 11日(月)千葉で5cmの積雪

低気圧や気圧の谷の影響で、全国的に曇りや雨または雪の所が多い。西～東日本の太平洋側でも一部で積雪。岡山は3cm、西日本や関東では最高気温が年差より5℃以上低い所も。



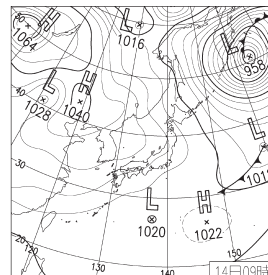
## 12日(火)次第に冬型気圧配置

日本の東の低気圧が東進し、次第に冬型気圧配置に。近畿以北の日本海側中心に雨や雪。その他は概ね晴れ。沖繩の一部で雨。那覇市、南大東村でヒカンザクラ満開。下関で初霜を観測。



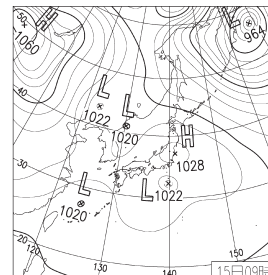
## 13日(水)熊本市ヒバリ初鳴

気圧の谷は東に進み、大陸から高気圧が張り出す。近畿以北の日本海側を中心に雨や雪。山形県肘折で日降雪量41cm。沖繩・奄美～九州は気圧の谷の影響で、午前中を中心に雨。



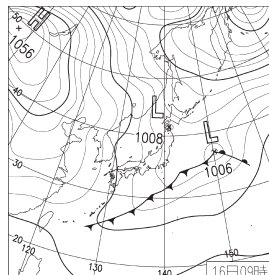
## 14日(木)北海道で低温続く

北日本は冬型の気圧配置が続くが、次第に大陸の高気圧が日本海に移動。沖繩～九州や日本海側で雨や雪。北海道歌登で-29.6℃など北海道の所々で最低気温が年差-10℃以上。

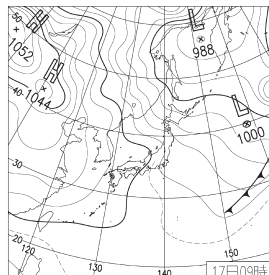


## 15日(金)和歌山市ウメ開花

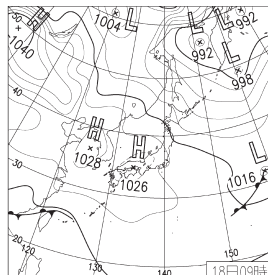
西日本や沖繩は気圧の谷の接近で所々雨。東日本は低気圧の影響で雪や朝晴れていた地域も日本海側で雪。北海道は最高気温が年差を上回った所多く、8日頃からの低温は一段落。



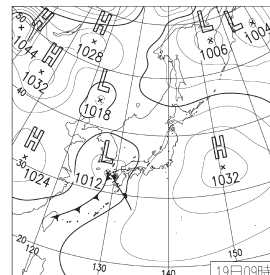
**16日(土)八重山地方で激しい雨**  
低気圧や前線を含む気圧の谷は東に進み、午後には次第に冬型気圧配置。沖縄・奄美や九州、四国、山陰以北の日本海側などで雨や雪。沖縄県所野では39.5mm/1h、水戸市でウメ開花。



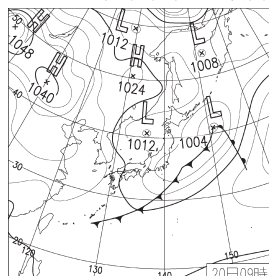
**17日(日)西日本冬型緩む**  
大陸の高気圧が西から張り出し、西日本では次第に冬型の気圧配置が緩む。沖縄・奄美、山陰～北陸、北日本で雨や雪、九州や四国、東日本太平洋側などでは広く晴れ。



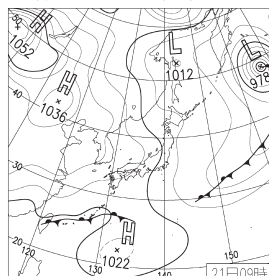
**18日(月)福岡市でウグイス初鳴**  
高気圧が本州付近を移動、北陸以北も概ね雪から次第に晴れ。一方、気圧の谷の接近で九州は夕方から雨。沖縄・奄美は湿った空気の影響で曇りや雨。甲府市、金沢市ウメ開花。



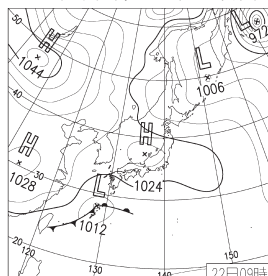
**19日(火)九州北部・四国で春一番**  
夜には紀伊水道と能登半島付近に低気圧。暖気が入り、北海道では朝の最低気温が平年より15℃以上高い所も。また最高気温も沖縄県の8地点と鹿児島県と論島で2月1位の値。



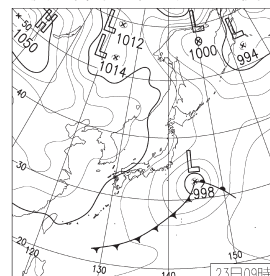
**20日(水)台風第2号発生**  
日本海の低気圧の影響で山陰～北陸及び東北で雨や雪。関東は夜に雨、その他は晴れや曇り。全国的に気温が上昇し、最高気温は5月並の所も。東京都大島21.0℃は2月の1位更新。



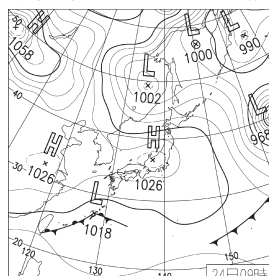
**21日(木)北海道厚真町で震度6弱**  
冬型気圧配置だが西から次第に緩む。北陸～東北日本海側を中心に雨や雪。沖縄・奄美は前線の影響で雨。沖縄県と那国島36.5mm/1h。九州や東日本太平洋側は晴れ。福島市でウメ開花。



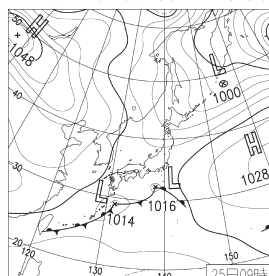
**22日(金)熊谷市でヒバリ初鳴**  
前線を伴った低気圧が、東シナ海から日本の南へ東進。沖縄・奄美は曇りや雨。九州～四国は次第に雨が降りその他の天気も下り坂。全国的に暖気が入り最高気温4月並の所も。



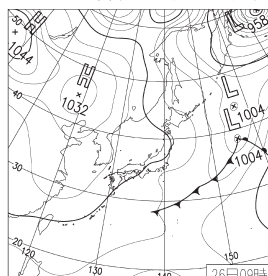
**23日(土)台風第2号920hPaに**  
2月の台風としては最低気圧。2月に「猛烈な」強さとなるのも初。九州～関東の一部に雨を降らせた低気圧は朝には日本の東へ、日本海側は雪や雨が残ったものの、夜は天気回復。



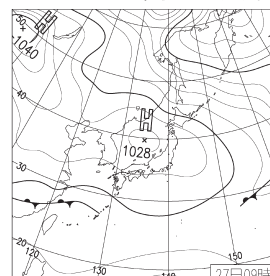
**24日(日)京都市でウメ開花**  
沖縄から九州南部は前線や低気圧の影響で雨。その他の地方は高気圧が移動し概ね晴れ。最高気温も九州南部中心に真冬並となったが、その他の地方は所々で4月上旬並。



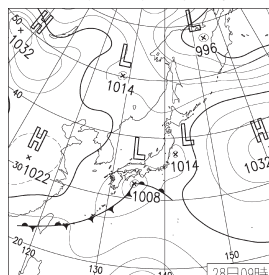
**25日(月)全国的に4月並の陽気**  
沖縄や九州南部、東日本太平洋側は、低気圧や前線の影響により一部で雨。北日本は気圧の谷の影響で所々雨や雪。その他は晴れや曇り。最高気温は平年より10℃以上高い所も。



**26日(火)高知市でウグイス初鳴**  
大陸から高気圧が張り出し日本付近を覆う。全国的に概ね晴れたが、湿った空気が流れ込み関東南部は曇り、上空の気圧の谷が通過した北日本は日本海側中心に夕方以降雪や雨。

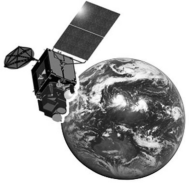


**27日(水)彦根市でヒバリ初鳴**  
高気圧が本州付近を南東に移動。近畿、東海や北日本中心に晴れたが、湿った空気や前線の影響で近畿を除く西日本は午後から、関東も夜には雨。沖縄・奄美は晴れで夜は一部雨。



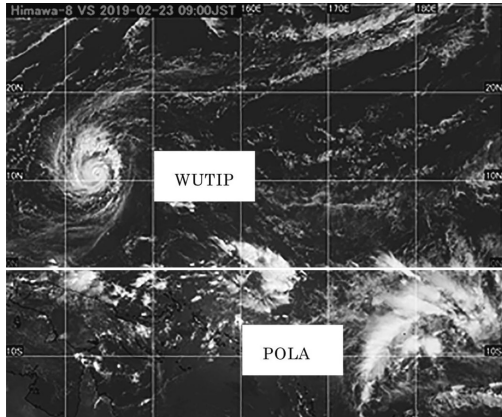
**28日(木)沖縄・奄美で激しい雨**  
低気圧が発達しながら本州南岸を東北東進。沖縄・奄美～東北南部で雨。沖縄・奄美では雷雨となり、沖縄県下地で2月1位となる31mm/1hの激しい雨。台風第2号熱帯低気圧に。



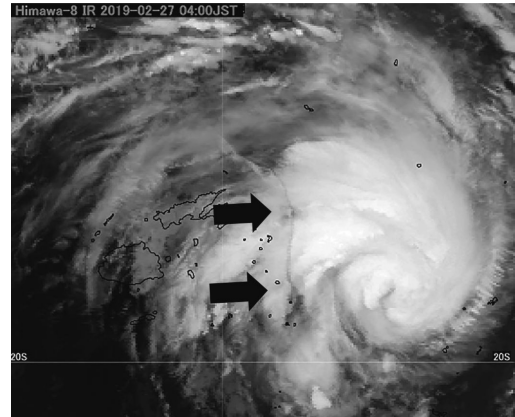


## 今月のひまわり画像—2019年2月

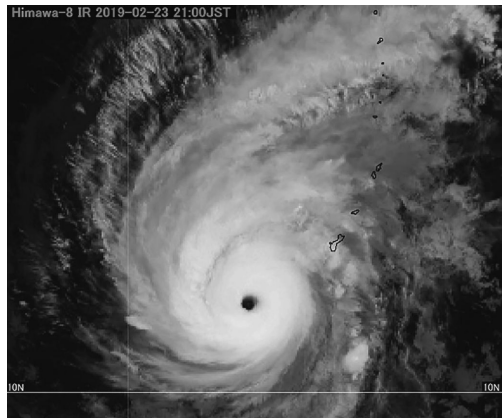
### 北半球と南半球で発生した特徴的な熱帯じょう乱



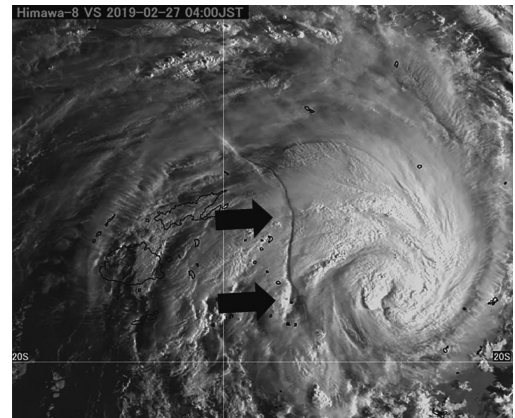
第1図 2019年2月23日09時（日本時間）の可視画像。



第3図 2019年2月27日04時の南半球の赤外画像。



第2図 2019年2月23日21時の北半球の赤外画像。



第4図 第3図と同時刻の可視画像。

2月の北西太平洋は、1年の内で台風の発生が最も少なく、平年（1981～2010年）の発生数は0.1個である。今年20日03時（日本時間）に台風第2号（以下WUTIP）が発生し、ほぼ同時期に南半球ではトロピカルサイクロンPOLAが発生した。第1図は23日09時の可視画像で、この時間WUTIPとPOLAは赤道を挟んで存在していた。

WUTIPは18日21時にマリアナ諸島付近で熱帯低気圧（TD）として発生後、ゆっくり発達しながら西に進み、23日には急速発達を始め、同日21時（第2図）には中心気圧920hPa、最大風速105kt（1kt≒0.51m/s）と2月としては最も強い台風となった（従前の記録は2015年台風第2号の940hPa、85kt）。

一方POLAは23日にトンガ付近でTDとして発生

し、26日にはトロピカルサイクロンの勢力まで発達した。その後28日には中心気圧950hPa、最大風速90kt（オーストラリア気象局の速報値）まで強まったが、2月の南半球ではこの程度の勢力まで発達するのは珍しいことではない。POLAが特徴的であったのは、最盛期の前に、中心を取り巻く濃密な雲域内に大規模な「切れ目」が発生し、長時間持続したことである。第3図は27日04時の赤外画像、第4図は同時刻の可視画像で、図中の黒矢印の先には南北約500kmにわたる「切れ目」が確認できる。この現象の発生要因は不明であるが、26日17時頃から明瞭となり、27日09時まで続いた。WUTIPとPOLAはともに特徴的な熱帯じょう乱であった。

（気象庁予報部予報課 西村修司）